

ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの「花」、 普及の最前線

文・写真／井上 栄(青年海外協力協会)

第9回

ソロモンゲームとともに



「小動」中学校レベルでの普及活動を開催」という要望を受けてのソロモンでのソフトボール普及活動も順調にスタートを切りました。ソロモンでの体育隊員の活動を終えて2009年12月に日本へ帰国するころ、「来年は4年に一度のソロモンゲームがあるよ」という話を聞いていました。ソロモンゲームとは、日本でいう国体のことです。当初は4月に開催予定だったので、ソフトボールの試合開催は難しいと諦めていました。しかし、ここはソロモン、会場をはじめとする準備がまっとう進んでおり、運よく大会の開催そのものが2カ月延期になっていました。

ソロモンゲームは、ソロモン最大のスポーツイベント。ソロモン内9つの州から約3000人が集まり、その中には選手だけなく、各州でスポーツ振興にかかる職員も多く含まれます。

ソロモンでソフトボールが行われているといつても、主に首都ホニアラに住む人が中心で、



いのうえ・さかえ／1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始めて大学までプレー。卒業後は愛知県公立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してジンバブエ共和国(07年6月～08年3月)、ソロモン諸島(08年8～09年12月及び10年4月～11年3月)に赴任。帰国後は、星槎名古屋での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に勤務。

選手たちもすべての州からとうわけではありません。それでもソロモン全土の人々に、ソフトボールという競技を知つてもうにこれほど最適な舞台はありません。

そこで普及活動の第一弾として「ソロモンゲーム参加」を掲げました。準備が遅れているとはいえ、実施種目は既に決定されています。しかし、交渉をして、大会開催中に2試合させています。しかし、交渉を重ね、エキシビションゲームと一緒に支給される公式Tシャツが支給されないと他のスポーツより条件が悪い面もあります。が、ソロモンでは違います。スポーツの大会だけではなく、職場内外で実施されるさまざまな研修においても、重要な役



ソロモンゲームの試合前整列。
ユニフォームもそろえて準備万端



ソロモンゲームの会場にはみんなでトラックの荷台に乗って

ソロモン諸島 Solomon Islands
首都：ホニアラ（ガダルカナル島）
人口：約53万人
言語：英語、ビン語
面積：2万8,900km²（岩手県の約2倍）
大小約100の島々からなる英連邦の一国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。

日本
ソロモン諸島
ホニアラ

した隊員がよく知るスポーツ用品店から「デザイン変更のために不要になった体操服をソロモニで何かに生かしてほしい」と寄付をしてくれていました。

ソロモンには「ラバラバ」と呼ばれる布があり、染色したり、研修などで日当や餐食が重要なようにイベント参加時に配られるTシャツもソロモン人にとっては大切なものです。

参加してくれる選手たちが少しでも他の種目の選手たちと同じように喜びを感じてほしいと思いました。運よく同時に赴任

されるのはその内容よりも、「日当が払われるのか」「軽食や昼食がついているのか」。そういうわけでソフトボールの試合ができると決まったものの、試合をしてくれる選手がいるのか不安はありませんでした。

他の種目では、ソロモンゲームに参加する選手たちに日当を払うという話も聞きました。せめて選手たちの自己負担がないよう一人100ソロモンドルの交通費だけは連盟で用意しました。

日本からの寄付でもらった体操服をアレンジした記念Tシャツ（写真左）。会場にはストラップアウト装置を常設してPRに役立てた（写真右）

いたいという選手が多数いました。多くの選手が大会でプレーすることに名乗りを上げてくれたのですが、資金の面から試合をするギリギリの18名と連盟職員2名分の計20名に絞らざるを得ませんでした。日曜日のリーグ戦に参加している選手のレベルはさまざまなので、「見せる」試合を行うためには上手な選手たちに参加してもらお必要もありました。

ソフトボール普及へ同じ気持ちを持つ選手たちの理解と温かい協力を得ることができ、無事にソロモンゲームでエキシビションゲームができることになりました。

研修などで日当や餐食が重要なようにイベント参加時に配られるTシャツもソロモン人にとって大切なものです。

参加してくれる選手たちが少しでも他の種目の選手たちと同じように喜びを感じてほしいと思いました。運よく同時に赴任

い船でも3時間くらいかかる場所です。また、大会期間の約2週間仕事を休まないといけません。参加する選手たちにとってあまりいい条件ではありませんが、選手たちを信じて、日曜日のリーグ戦の際にソロモンゲームで試合ができると伝えました。すると日当を払うことができなくとも、仕事を休んでもエキシビションゲームでプレー



開会式の入場行進後、記念に撮った1枚。「EXHIBITION SPORTS」としてソフトボールチームは参加



日本からの寄付でもらった体操服をアレンジした記念Tシャツ（写真左）。会場にはストラップアウト装置を常設してPRに役立てた（写真右）



Information 短期間での活動もあり

原則2年間の任期のJICAボランティアだが、活動期間が1カ月～1年未満の短期ボランティア制度もある。短期ボランティアは、年4回（5月、8月、11月、2月）募集があり、応募案件はJICAボランティアなどの国際協力経験者だけが応募できるものと、JICAボランティア未経験者でも応募できるものの2種類がある。選考は、応募書類をもとにした1次選考と直接や技術審査を行う2次選考がある。2次選考に合格すると短期ボランティアとなる。赴任前には、最大5日間程度の研修を受ける。派遣中の待遇は長期ボランティアと異なるものの、安心して活動ができる支援体制がある。

HP://www.jica.go.jp/volunteer

ず、2試合予定していたエキシビションゲームは1試合しかできませんでした。しかし、当初予定していた会場が水没したことから、メイン会場のグラウンドでの試合になりました。自立できるようになつたストラップアウトは、試合後会場で注目を集め、2つの州からは自分の州でも普及をしてほしいという言葉をいただきました。

ソフトボールのP.R.目的で参加したソロモンゲームでしたが、それ以上に宿泊先の小学校の教室や工場の作業場で約2週間選手たちと寝食を共にし一緒に活動したことはかけがえのない時間。その後の活動でも本当に多くの協力をしてもらえたきっかけづくりになりました。